

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年3月28日

【評価実施概要】

事業所番号	4270202197		
法人名	有限会社 シャローム		
事業所名	グループホーム 希望の家広田		
所在地 (電話番号)	長崎県佐世保市広田3丁目9番1号 (電話) 0956-27-5202		
評価機関名	SEO ㈱福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成19年11月7日	評価確定日	平成20年3月29日

【情報提供票より】(平成 19年 4月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年8月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 4人, 非常勤 5人, 常勤換算7.3人	

(2) 建物概要

建物形態	単独	改築
建物構造	木造	
	2階建て	1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	12,000 円	その他の経費(月額)	12,000 円
敷金	有() 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		940 円

(4) 利用者の概要

利用者人数	名	男性 名	女性 名
要介護1	名	要介護2	名
要介護3	名	要介護4	名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 歳	最低 歳	最高 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	杏林病院、芥川歯科
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

木造の民家を改装した建物で違和感なく地域の中にとろけ込んだ佇まいで、周囲は田んぼや公園があり、交通や買い物の利便性にも富んだ新興住宅地の一角に平成16年8月に建てられた。住宅道路は整備され公園迄の散歩も、色々な道や様々な眺めを楽しむ事が出来る。開設当初から自治会に加入し、現在管理者は地区の班長を務め、入居者と一緒に配布物を持って行ったり寄り合いにも参加する等、地域との交流に努めている。高校・短大の実習生を受け入れ、地域の中のホームとしての役割に積極的に関わっている。ホームを“もう一つの家”と思っている職員や仕事に来るのが楽しみで、休みの日にも入居者の顔を見にホームに来たり、職員の子供が学校帰りにホームに寄って宿題をしたり、入居者もその光景を微笑んで見ていたり、一緒に団欒して過ごしたりと大家族を思わせる雰囲気が漂っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価結果を基に全職員で話し合い、入居者が一人で出来る事への職員の対応方法の統一や、勉強会の開催を増やし緊急時の対応について看護師に指導を受けたり、事故報告書を活用した話し合いを行い改善に努めている。入居者と共に回覧板を回したり地域との交流について、運営推進会議で話し合う等の取り組みを行っている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価によって改善すべき点が具体的に示される事や、自己評価についての説明を行い、話し合いを重ね全職員からの意見を管理者がまとめている。前回の評価結果を基に改善点・方向性を書き出し、その具体策を皆で検討し緊急時対応や事故報告書を活用し検討する等の取り組みを行っている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>ご入居者・ご家族・民生委員・包括センター職員に運営推進会議を開催し、1・2階を自由に往き来出来る事や、足を伸ばしてゆっくり出来る場所等のご意見を頂き、エレベーターや畳の間を設置する等の対応を行っている。優先的な議題の検討等その時に応じた柔軟な対応や時間配分を考えたり、事前連絡を行い会議の日程を調整をし定期的に開催されている。家族からの質問への対応法など支所を訪れて相談し、職員から解りやすいアドバイスを頂いている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>ホーム便りを毎月お送りしたり、電話や来訪時に様子をお伝えする中で「何かご意見や心配事はありませんか」と繰り返し尋ねているが、特にご意見等を頂いた事はない。意見箱の設置をすると共に、運営推進会議でご意見を頂く事もあり対応策を検討したり、今後も電話の際や来訪時にご意見を言って頂けるよう声かけを続けていく。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の夏・秋祭りに参加したり、ギター・バンドの演奏や昔懐かしい歌等、定期的にボランティアの方に来て頂いたり、この地域出身の学生が帰省の際に実習に来たり、高校生の福祉の実習の受け入れや地域の方が見学に来られたりしている。管理者が自治会班長をしており、寄り合いや回覧版・配布物を持って行ったり、入居者と共に地域の清掃にも参加している。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営者が脳腫瘍になられ“ものを忘れてしまう、覚えられない”事の不安の大きさを体験し、日々の中で希望を探しながらその人の気持ちになって、快適な生活が送れるようにとの思いを基に“夕暮れ時にも輝く”と言う理念が作られた。晩年になってもその人らしく輝いて頂く為に、地域も取り込んだ支援が大切という思いが込められている。代表者の思いを管理者はじめ職員も理解し受け継がれている。	○	自分達で作っていく理念もあっていいという施設長の思いもあり、理念の中の深い意味を探りながら“地域の中で”という視点を盛り込み、その人の気持ちになって実践していきけるよう解りやすい言葉で、地域とのつながりを大切にした理念の作成に取り組みされる事に期待していききたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝、職員全員で聖書を読み、理念に関連する部分を皆で唱和し、施設長より人の気持ちになる事、安心して快適に暮らせる事を理念に結び付けられている。常に理念を意識してケアに取り組んでおり、ケアの場面など問題が生じた時は理念に照らし合せ、話し合い気になる言葉かけ等見られる時には、互いに注意したり指導している。	○	理念の実践に向けた取り組みが個々に異なる事があり、理念が難しい為に実践に結びついていないのではないかと運営者は考えており、解りやすい言葉に変え日々ケアの中で意識して取り組み、理念が浸透し振り返りにつなげられる事に期待していききたい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の夏・秋祭りに参加したり、ギター・バンドの演奏や昔懐かしい歌等、定期的にボランティアの方に来て頂いたり、この地域出身の学生が帰省の際に実習に来たり、高校生の福祉の実習の受け入れや地域の方が見学に来られたりしている。管理者が自治会班長をしており、寄り合いや回覧版・配布物を持って行ったり、入居者と共に地域の清掃にも参加している。	○	幼稚園児の送迎時間に合わせた日光浴や、挨拶を交わしたりする事から始め地域の方と交流できる場面や、少しの時間でも地域行事に参加できる方法、ホームの行事に来て頂く為の取組み等を検討され、地域との交流が更に深められる事に期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は外部評価によって、第三者の眼から見た改善すべき点が具体的に示される事や、自己評価についての説明を行い、話し合いを重ね全職員からの意見を1つにまとめた。前回の評価結果を基に改善点・方向性を書き出し、その具体策を皆で検討し緊急時対応や事故報告書を活用し検討する等の取り組みを行っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	市から助言を頂き運営者が、ご入居者・ご家族・民生委員・包括センター職員に運営推進会議の参加者としてお願いし、H.19.4.に第1回目を開催した。会議での検討内容や優先順位を決め、その時々に応じた柔軟な対応で時間が延長しないよう議事進行している。1・2階を自由に往き来出来る事や、足を伸ばしてゆっくり出来る場所等のご意見を頂き、エレベーターや畳の間を設置する等の対応を行った。次回予定日を予めお伝えし、再度電話で出席をお願いして定期的に開催されている。	○	グループホームについてや認知症について、介護技術・介護保険制度の学習の場として活用したり、地域からの提案や地域ができる事など検討してだけでなく、地域の方にホームを理解して頂く為にも会議の開催日をお知らせしたり、参加の機会を検討する等、今後の更なる取組みに期待していききたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険の申請や書類関係、家族からの質問への対応法など支所を訪れて相談し、職員から解りやすいアドバイスを頂いているが、ホームの活動状況等の情報提供を継続的に行っているとはいいいがたい。	○	ホーム便りを支所窓口へ持って伺う等で、継続的な活動状況や情報提供につながり、更にはホームを知って頂き親近感を感じて頂き、ホームへ足を運んで頂くきっかけ作りにもなっていくと考えられ、今後更なる関係作りに期待していきたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便りに管理者が暮らしぶりや健康状態について記入し、請求書と出納帳のコピーと一緒に送付しご家族からも喜ばれている。ご本人の希望等は都度電話でお伝えしたり、来訪時に様子をお伝えすると共に、担当者の変更時はお便りでお知らせし、職員の異動については来訪時に管理者から紹介している。	○	ホーム便りで暮らしぶりについてお知らせしているが、日常の生活風景をより具体的にお伝えする為に、担当者が担える部分等職員と共に検討したり、職員の異動についてもホーム便り等でお知らせする事で、ご家族との関係が更に深められるよう取組みに期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置すると共に、家族の来訪時に「何かご意見や心配事はありませんか」と繰り返し尋ねており、暮らしぶり等について報告した際や運営推進会議で、ご意見等を頂く事もあり施設長に報告しその都度検討し対応している。今後も電話の際や来訪時にご意見を言って頂けるよう声かけを続けていく。	○	家族のお気持ちやご意見を言い易い雰囲気を作っていくと共に、記入用紙・筆記用具・書く場所の工夫や、意見箱の利用の仕方等について、職員と共に検討しご意見が運営に反映されるよう取組んでいかれる事に期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的に異動は行わないようにし、基準以上の人員配置や有給休暇を取りやすくし、休みの希望にはできるだけ応じている。管理者は、体調を気遣いながら声かけをしており、定期的に施設長が個人面談を行い悩みを聞いたり外部の相談先も設けている。社員旅行や食事会を行い職員の親睦を深めると共に、管理者は新入職員に対して、入居者との信頼関係が早期に築けるよう情報提供・指導を行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内の研修係が研修内容、講師等の計画を立て、ホーム内や系列の事業所と合同で介護保険の申請についてや薬の副作用などの勉強会を定期的に行っている。実践リーダー・協議会主催の研修等、段階に応じて参加できるようにし伝達研修を行っている。施設長は職員個々の教育について考えており、時々に応じて本人に話をしているが計画書として作成はされていない。	○	施設長は職員育成の長期計画の作成を考えており、職員と話し合いながら管理者が各職員の適正に応じた育成計画の原案を作る等、目標を明確化する事により自己啓発にもつながっていくと考えられる。今後の取組みに期待していきたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設長は佐世保市認知症連絡協議会のブロック長をしており、職員と一緒に会議へ出席している。電話等で情報交換したり、他ホームかも見学に来られたり、透析の方がいらっしゃるホームに実習に行ったり、今後も相互訪問や実地研修を予定している。	○	他グループホームの見学だけでなく定期的な相互訪問や実習等、交流する機会を確保し連携につなげたいと考えており、近日中に他グループホームへの1日実習を予定している。今後の活動を通じた更なる取組みに期待していきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に施設長・管理者・職員が訪問し面談したり、家族や本人に見学して頂き、顔なじみの関係を作るようにしている。今後も本人が納得の上で安心して入居して頂き、ホームでの生活に徐々に馴染んで頂けるような支援を続けていきたい。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	買い物に行く時は「道が解らないから助けて欲しい」とお願いして一緒に出かけたり、料理や戦争時の暮らし方、自分達の知らない時代の事を教えて頂いている。「大変ね」とねぎらいの言葉を頂いたり、体の創をコンプレックスにしていた職員が入浴介助をした際、入居者の方から「気にせんでいい、まだ人生半分。これからもまだまだ良い事があるよ」と励まして頂き、心の重荷が軽くなり自信を持てるようになり、人生の大先輩の大きさを感じ入居者によって支えられている事を実感している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	朝の入居者の表情を見て、どう過ごしたいか希望をお聞きしながら言葉や、その時の雰囲気で気持ちを感じ取ったり、言葉にされない方は思いに近づけるよう、家族からの情報や独りよがりにならないようミーティングで話し合ったり、情報交換しながら思いを把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人と話し合いができていない方もおられ、課題や目標が大括りになっていたり、地域で暮らすという視点が計画に盛り込まれている方とそうでない方がいる。日頃行われているケアがすべて計画に記載されておらず、ケアの留意点等の統一が不十分な面もある。意向が十分反映されているといえない。計画作成時にかかりつけ医に相談したり職員で話し合い、計画に反映させているが、ご家族からは「おまかせします」といわれる事が多く、思いを十分把握できていないのではないかとこの思いがある。	○	日々の生活の中で入居者の言われた言葉など記録に残すと共に、ご家族の思いや気付き、入居者の生活歴や趣味等を聞いたりしながら、個別・具体的な目標や地域で暮らし続ける為の方法等、家族と共に考え計画に反映されるよう取組まれる事に期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に一度の定期的な計画の見直しを行っており、入居者・家族の要望や状態の変化が生じた時には、設定した時期の前でも臨機応変に計画を見直し、特に変化が見られない時にも全入居者に対して月に1回程度の計画の見直しは行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	盆正月の外泊の日程調整・準備や、入居者家族の葬儀へ職員が付き添って参列したり、週3回の透析時の送迎、医療連携体制をとっており24時間、看護師と連絡が取れる状況で入居者の健康管理が行えている。希望により他施設へ移る等状況に応じた支援を行っているが、地域の方のご要望や急な支援等については現在検討されている段階である。	○	来年からデイサービスを開始する予定であり、地域の方から要望があれば柔軟に対応できる体制が整えられつつある。今後充実されて行く事に期待していきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にご希望をお聞きすると共に、提携医についてお話し納得の上受療して頂いているが、専門科については以前からのかかりつけ医で受療して頂いている。以前からのかかりつけ医の往診や受療介助等、ご本人の希望にあわせている。通院介助は職員で行っており、変化があった場合はすみやかに報告しているが、そうでなければ面会時に報告している。ご家族だけで通院介助をされた時も、受診結果をお聞きし把握している。	○	ご家族のご意向を伺いながら、必要な方には受診時変化が無くてもその都度報告していく等検討され、適切な医療を受けられるような支援の継続に期待したい。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の対応について入所時に説明し、全入居者・ご家族の意向を把握している。状態変化のあった場合はその都度話し合い必要な対策を整え、ご家族・病院・職員全員で方針を共有している。独居の方についてはホームで葬儀を行い法人敷地内の納骨堂に納骨を行った。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄介助時や食べこぼしの処理等、入居者の尊厳を大切に「いっしょにいきましょう」とさりげなく声をかけてからトイレへ誘導したり、居室入室時にはロックや声かけを行っている。入居者の前で職員間の申し送り等をしない事を始め、健康状態について等来訪者に話さない等プライバシー保護を徹底している。書類の管理等個人情報保持について全職員が理解し漏洩防止に取り組んでいる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活のリズムが取れるよう声かけ・誘導は行うが、部屋で過ごす事が好きな方には無理強いはせず、気持ちを大切に部屋食にしたり、部屋に籠りがちになる時には、食事の30分位前から声かけを続ける事で、皆と一緒に食事をして頂く気分になって頂いたり、昼間はなるべくリビングで過ごして頂き、寝たきりにならないよう努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	「何を作りましょうか」や好きな物・食べたい物がないか等、その都度お尋ねし一緒に献立を考えたり、食材を買いに行ったり菜園で採れた物を取り入れたり、煮物や酢の物の味加減、食器の配膳、下膳、食器やテーブル拭き等に参加して頂いている。咀嚼・嚥下力低下の為キザミ食にした時も、見た目が変わらないように盛り付けを工夫する等、入居者に合わせた対応を行い、職員も一緒に食事をし美味しく食べられる工夫をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の時間帯や回数がある程度決めているが、時間帯によっては難しい場合もあるが希望時にはシャワー、部分浴、清拭等で対応している。行事やボランティアの方が来られる場合は入浴日や時間の変更を行ったり、羞恥心へ配慮し同性介助にしたり1人ずつ入浴して頂いている。季節を感じて頂く為に菖蒲湯にしたり、入浴剤を利用する等入浴を楽しんで頂けるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	カラオケや皆でお茶を飲んだり、おしゃべりの時間や手紙を書く等の楽しみごとや、編物や散歩・買い物と一緒に出かけた時、職員が解らないから、出来ないから教えてください等、教える事で活力を引き出す事につながったり、役割として発揮出来る場面作りに積極的に取り組んでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居前からの行きつけの靴屋へお連れしたり、入居後に行きつけの店になって一緒に買い物に行ったり、系列のホームの教会へお祈りに行ったり、エレベーターの設置や段差解消により、戸外へ出る機会が増えている。気分転換・五感刺激の為の日常的な外出や習慣・花見等関心事を踏まえ、思いを察しながら外出を薦めている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	19:30～7:00迄は防犯上の施錠を行っているが、玄関他出入り口は施錠せずエレベーターも自由に使えるようになっている。入居者が1人で外出された時は危険防止に努めながら、そっと見守り自由に外出できるように配慮している。安全確認の為に職員同士声をかけあったり、近所の方にもお願いして、電話で教えて頂いたり、連れてきて頂いたり見守りをして頂く事もある。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	入居者・職員で年2回の火災を想定した消防訓練を行い、年1回は消防署の方の参加も頂き、地域に対しても火災時の消火作業を依頼しているが訓練の参加に迄は至っていない。災害発生に備えた備蓄は特に準備されていない。	○	日々の中でも定期的に入居者と共に避難訓練を行っていく事や、地域の方の訓練の参加や連絡体制作り等、運営推進会議に諮りたいと考えられており、定期的な訓練の積み重ねが迅速・適切な対応に繋がっていくと考えられる。災害の備蓄に関しても防災担当者を中心に勉強会の参加を通して検討する予定であり、災害対策の充実に向け取り組まれることに期待していきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	大豆の加工食品と野菜を中心とした食事を基本とし、嗜好や食習慣について入居時にお聞きし、好みに合わせ食材の変更や栄養過多の時には盛り付けの工夫で減量したり、調理法や味付けを変えている。食事量・飲水量の記録し月2回の体重測定、血液検査の結果や提供した食事を施設長の友人の栄養士に献立をチェックしてもらい助言を受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1・2階を自由に往来できるようエレベーターの設置に伴い廊下や縁側も増築され、玄関や食卓には季節の花を飾ったり、掲示物を変えたりして四季の移り変わりを楽しんで頂けるよう配慮している。リビングは座り心地の良いソファが置かれ、足置きと組みあわせるとゴロリと横になり、ゆっくりと過ごせるような工夫がされている。天気の良い日は窓を開けたり、換気や空調にも気を配り心地よい空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドやタンスはホームの備え付けになっているが、希望によって自由に配置して頂いている。家族と相談しながら使い慣れた鏡台や飾り物、両親の写真、時計等自宅から馴染みのある品を持って来て頂いている。入居後、自分で作られた作品が飾られていたり馴染みの物に囲まれた生活ができるよう配慮されている。		